

和歌山大学  
クリエ映像制作プロジェクト 2010年度成果報告書  
作成者・代表 伊藤 成洋

<目標>

ドキュメンタリー番組を制作する  
クリエ、大学の情報発信  
番組制作を通じてメンバー自身の成長をはかる

<目的>

ドキュメンタリー番組の制作では大学や和歌山の地域の人物や事象にスポットを当て、制作した番組を多くの人に見てもらい、感動を与え、社会問題を考えるきっかけを生みだしていきたいと考えている。

クリエ、大学の情報発信では、大学内には講演会や学校行事、実験など日々貴重なイベントが行われているが、それが効果的に広報されていないことに気づいた。そこで映像というメディアを使用し、このような貴重な事象を記録し、公開していくことで、多くの方にイベントを知ってもらう事を考えた。

また、番組制作を通して普段の大学の授業では学べないような事を体験して、社会に出た時に役に立てようというものである。例えば、クライアントとの交渉、インタビューなど社会人のスキルに繋がる活動も多い。

<主な活動内容>

・ドキュメント番組の制作

クリエの各活動を含む、大学内の事象に対してテーマを決め、短編のテレビ番組を制作する。「人に伝える」技術だけでなく、映像作りの大変さ、楽しさを学び、今日の情報社会の中の映像が持つ重要性を学びたい。番組制作は、企画から取材、編集と様々な工程を経て完成する。一般にこれは得意分野をそれぞれ分業化することで効率化されているが、自分たちのプロジェクトは基本的に「番組制作に必要な全ての工程を自分たちで行う」ことを掲げている。カメラが好きだから撮影だけ、編集が得意だから編集だけ、という活動は行わない。これは、すべての工程に触れることによって番組制作の大変さを知り、番組に本当のメッセージを吹き込むことを学びたいからである。

・クリエ、大学の情報発信

まだまだ、あまりスポットが当てられず眠っているイベントは多い。今年も引き続き、撮

影、収録を続けていきたい。また、今年はインターネットを利用したライブ中継を行なう。ユーチューブなどの動画投稿サイトに加えて、USTREAMなどのライブ配信サイトは今後、情報発信をする上で見逃せない手段である。

#### <具体的な活動>

今年は主に、NHKコンテストへの参加、大学祭生放送の実施の2つを活動の柱にした。これに加えて、外部からの依頼の番組制作やイベントの収録を行なった。

##### ・NHK杯全国大学放送コンテストへの参加

昨年度に引き続き今年度もコンテストに参加した。今年度はテレビドキュメンタリー部門2作品、テレビCM部門1作品、ラジオドラマ部門1作品、朗読部門2作品を出品した。結果はテレビドキュメンタリー部門の「手に入れろ！大空からのメッセージ」が60本近くの出品中、最優秀賞（全国優勝）を果たした。昨年の初出場から2年目での全国優勝は異例のことである。

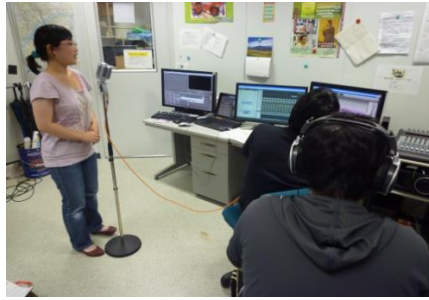
この番組は和歌山県立桐蔭高校の物理・化学の缶サット甲子園に出場したメンバーに密着した番組である。4月から（他の目的での撮影では2年前から）メンバーへの取材を開始し、9月に編集を終えて完成した番組である。他の作品が1～2か月程度で制作することが多いと聞いていたので、非常に長い時間をかけて作った番組である。また取材も、和歌山にとどまらず全国大会の秋田や世界大会のアメリカにまで及び、高校生の姿からの感動はもちろんのこと、取材量などでも審査員に高い評価を受けた。

また、他の出品作品は、予選通過はならなかったが、良い作品を作ることが出来た。昨年よりも質の高い作品を作れたことは評価できる。ラジオドラマに関しては今年が初めての制作だったが、決勝進出まであと一步の出来だった。コンテストの作品に関しては、班ごとに分かれて制作をしたが、班員でトラブルがあったりしたこともあり、すべてが上手くいった訳ではないが、結果を残しながらも、課題を見つけられたことは今後のプロジェクト運営に大きな経験となった。



ドキュメント取材風景（写真左）

最優秀賞受賞後の記念撮影（同右）



ラジオドラマ収録風景（写真）

#### ・大学祭生放送の実施

今年の新しい取り組みとして、和歌山大学の大学祭においてU S T R E A Mを使った 1 時間の公開生放送を行った。大学内に特設スタジオを設け、大学祭の案内やゲストを呼んでの告知などを行うもので、番組制作では味わえない、生放送独特の達成感を味わうことが出来た。

実施に当たっては、企画（台本の作成、ゲストのアポ取りなど）から放送まで全て自分達で行い、メンバー全員が一つの目標に向かって取り組めたことは非常に良かった。特にA Dなどは2回生が就き、3回生が中心の活動から世代交代を進められたことは大きかった。

技術面でも、インターネット回線を使った配信はもちろんのこと、複数のカメラを使ったミキシングや音声ミキサー、V T R再生など初体験のメンバーも多いなかで何度も打ち合わせや練習を重ねて大きなミスなくやり遂げたことはメンバーにも自信となった。



生中継の様子（写真右左とも）

#### ・缶サット甲子園2010生中継

今年も去年に引き続き秋田で行われた缶サット甲子園の生中継をJ A X Aや宇宙教育研究所と共同で行った。インターネットで配信を行ったが、複数のカメラをミキシングし、それに実況、解説、インタビューやV T Rを織り交ぜた、いわばスポーツ中継のようなものである。会場の広さなどからケーブルの敷設や中継中のスタッフ間の連携に苦労したが

らも、炎天下の中スタッフが頑張ってくれて、成功できたことは大きかった。  
また生中継のほかにも後日、大会のプロモーションビデオの制作も行った。



撮影風景（写真左）

ネット中継ブース（同右）

・「水ロケットコンテスト2010」PRビデオ制作

9月に愛知県で行なわれた大会の様子の撮影を行なった。去年はJAXAと共同で生中継を行なったが、今年はPV制作用の撮影を行なった。2名で参加したが、移動を含めて1泊2日のハードなスケジュールの中、2人とも撮影を頑張った。撮影の後は、編集を行ない30分の記録ビデオと3分のPV用を制作した。この制作で得た制作費は人件費の他にも大学祭生放送用の機材購入などにも当てることが出来、当プロジェクトの自立性の面で、今後の活動の基盤になるものだった。

・学校紹介ビデオの作成

2年前に制作した学校紹介ビデオを更新することになり、新たに卒業生のインタビューなどを収録し、編集をおこなった。

・那賀消防署、活動報告ビデオの制作

・公開体験学習会の出展

・わかやま地域情報化フォーラム、インターネット中継

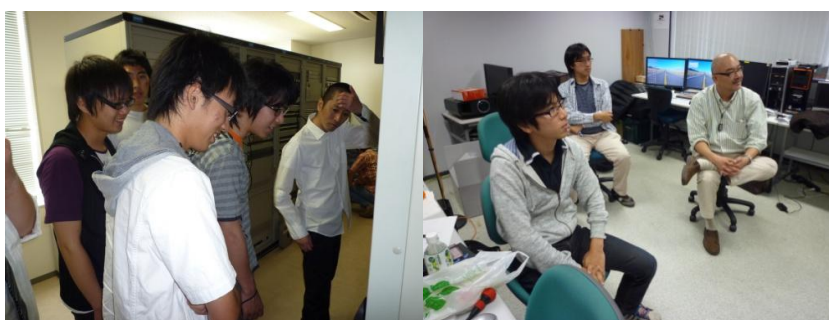
==番組制作以外の活動==

・番組制作会社の見学

大阪にあるソニーPCLに見学に行った。プロの使っている編集室を見学させてもらい、実際に機材に触らせて頂いたりした。テレビで流れているCMなども編集している会社で、編集技術など興味深いものが多く、メンバーに刺激になった。

・関西テレビプロデューサーによる番組批評

大学に関西テレビの方が来られた際に、Nコンに出品した作品を見ていただき、感想を頂いた。



ソニーPCL見学の様子（写真左）

関西テレビの方に作品を見てもらっている様子（同右）

#### <結果・成果>

結果として、NHKコンテストで優勝が出来、大学祭生放送も成功出来たのでプロジェクトとして今年は充実したものになった。今年の結果は設立から3年間の積み重ねてきたものが成果として表れた。また、活動内容として際立った記録はないが、和歌山大学の広報課と親密になることが出来た。これから幅を持たせて活動できるようになった。

#### <今後の課題・展望>

当プロジェクトは今年が3年目であるが、ある意味区切りの年となった。NHKコンテストの優勝、大学祭の生中継などの成果をあげ、結果を残すことが出来た。来年以降は、更なる映像制作の技術の向上はもちろんのこと、常に新しいことに挑戦していきたい。ただ来年も今年と同じようにプロジェクトを運営していこうとは思わない。スタッフの人数やモチベーションなどに合わせて方向性を決めていく。この3年間は、どちらかと言えば突っ走ってプロジェクトを運営してきた。これからは足元を固め、スタッフの育成なども重要になるだろう。3年間で良い関係を築けた、JAXA、宇宙教育研究所や広報課との接点を大切にしていき、和歌山の情報発信基地となるように尽力していきたい。

#### <感想>

プロジェクト設立者である前代表から役職を引き継いだこの1年は、私自身でも非常に中身の濃いものでした。前代表者のスキルには遠く及ばないため必死でした。しかし、活動を通じて、番組の完成時や、イベントの成功時の達成感はとても良いものでした。また新しい発見が多く、今年はロケットの撮影などをすることが多く、文系の自分にとっては、新しい知識の引き出しを増やすことが出来たのも大きかったです。

自分が代表として意識して取り組んでいるのは、メンバーが活動しやすい環境を整えること。クリエは自主性の活動であり、活動を押しつけるのではなく、それぞれの自主性が発揮しやすい場所を作っていきたい。

最後に、活動にあたって学生自主創造科学センター、宇宙教育研究所をはじめとして多くの支援を頂いたことに感謝いたします。